

教室から広がる交流の輪 豊岡に愛着を持って

豊岡市国際交流協会では、豊岡に住む外国人の方々を対象に日本語教室を開催しています。同教室で日本語指導ボランティアとして活動している一人の女性を紹介します。

河本美代子 さん(32歳) 妙楽寺在住



生徒一人ひとりに分かりやすく教える河本さん

日本語講師を目指したきっかけは外国人講師との出会い

豊岡市国際交流協会では、さまざまな方が講師として登録し、「日本語教室」では、現在、11人がボランティアで活動しています。同教室は、ほぼ毎日のように市役所で開催され、メンバーが連携して教室を展開しています。

ここで講師を務めている河本美代子さんは、持ち前の笑顔と分かりやすい指導方針で受講生から厚い信頼を得ています。

河本さんが日本語の講師を夢見はじめたのは、中学生の時。英語教師として来日した外国人の方を見て、「自分も海外で日本語を教えてみたい」



結婚後、姫路から豊岡に移住し、豊岡市国際交流協会の「日本語教室」で日本語指導ボランティアとして活動している河本さん。明るい性格が印象的。趣味は、海外旅行と1960年代の音楽を聴くこと

と思うようになりました。高校卒業後、大阪外国語大学現在は大阪大学と統合)に進学し、日本語を専攻しました。

経験を活かして日本語指導ボランティアへ

入学後、まずは、スペイン語などの外国語を習得し、その後、日本語について広く深く研究していきました。4回生になると1年間休学し、海外留学にも挑戦。留学先ではホームステイし、日本語の講師を務めながら、地元の人たちと交流を深め、自己研鑽しました。

大学卒業後、中国で1年間、日系企業で働く中国人スタッフに日本語を教え、その後、神戸の日本語会話学校で講師を務めていました。

教室では講師と生徒でも普段は友達

平成16年6月、結婚して引っ越してきた豊岡でも、「日本語講師として役立ちたい」との思いから、力を発揮できる場を探し、豊岡市国際交流協会に問い合わせたところ、日本語教室の存在を知ることになった。考えるよりも、まず行動」という性格もあって、翌月には活動を開始しました。

河本さんが理想とする講師像は、生徒一人ひとりの生活に合わせて役に立つ話題や言葉を取り入れ、これからも日本語の勉強を続けたいと思ってもらえるような魅力ある教室ができる講師です。また、教えることは学ぶこと、そして、自分の楽しみでもあると感じながら日々活動を続けています。

河本さんは、1児の母でもあります。育児に講師にと多忙な毎日を支えるのは、家族の理解と協力です。「家族の支えがなければ私の活動は実現しません」と話す河本さんの自宅は、時に日本語教室の会場になることもあります。同じ年代の子を持つ外国人の母親が集まり、交流の場にも

なっています。

出会いと交流を大切に

同教室で生徒が日本語を学ぶ理由は、ビジネスや自己研鑽のためではなく、ここ豊岡で生活するためです。同教室には、豊岡に住むそうした外国人の方々が集い、日々、学習に励んでいます。

河本さんは「豊岡で生活する外国人の方々は年々増えていることから、今後、私たちの活動はもっと大切になってきます。せつかく世界中から豊岡に来てもらったので、このまちに愛着を持ってもらえるよう、頑張っていきたいです」と目を輝かせていました。



海外で日本語を教え、生徒たちと交流する河本さん

保育園に広報マンがやってきた！ ①

合橋保育園

(但東町出合市場)
園児55人



ベジタブルクッキーを

作ろう！

2月6日、合橋

保育園では、4歳児のぞう組の園児たちによる、ベジタブルクッキーづくりが行われました。



園児たちの声がにぎやかに響く保育室をのぞいてみると、手洗いを済ませた園児たちが



タマネギ・ニンジン洗って皮むきをしていました。

タマネギで目が痛くなる



次は、野菜のすりおろしです。タマネギのすりおろしを始めた竜靖くんりゅうせいと珠鈴ちゃんしゅりが、目が痛いことこでこずっている様子。先生の手を借りながら少しずつすすっていき、ニンジン・シユンギクも準備を整え、次はいよいよお待ちかねの生地づくりです！



何だかおなが

すいてきた！

先生がボールに入れたバ

ターと砂糖を混ぜ始めると、「僕も混ぜたい」と蒼空くんが先生におねだり。ミキサーで少し



柔らかくしてもらつてから順番に園児たちみんな生地づくりにも挑戦。卵と小麦粉を混ぜ合わせて



シユンギククッキーが意外においしい！

園児たちは、できた生地をうすくのばして、星やハート、動物の形などに形抜きし、次々に、トレーに並べていきました。

その後は、調理員さんに焼いてもらい、焼き上がったクッキーは、



午後のおやつ時間にみんなでおいしく食べました。

顔輪笑の

出石町民の人の温かさを表現

劇団 憧憬チャンプルー(出石)

出石地域で演劇に取り組んでいる「劇団 憧憬チャンプルー」は、平成17年に発足し、現在、会員数は12人です。

同会の主な活動は、年1回、出石健康福祉センターで公演を行うことです。メンバーは、公演に向け、忙しい時間の合間を縫って練習に励んでいます。

代表の中嶋勝己さんは「出石町民の人の温かさを演劇で表現してみたいです」と力強く話します。発足当時、中嶋さん以外のメンバーは演劇未経験者ばかりでした。それでも、演劇をしてみたいという熱い思い(憧れ)を持ち、年齢や職業、住む地域も違う人が混ざり合った(チャンプルー)ことから、この劇団名が付けられました。

同会が発表する演劇は、年1回のみ。台本も舞台道具もすべて手作りで、公演した作品は2度と演じないということもあって、これまで3回行ってきた公演も、毎回、300人前後の観客が押しかけ

ます。悪役がないコント仕立てのストーリーは「出石町民から悪役を出したくない」という中嶋さんの思いから。

毎回の公演で、観客からは笑みがこぼれています。同会は今秋、永楽館で公演を行う予定です。公演に向けて3月から始まる練習では、週に1度、中嶋さん所有の作業場で行われます。メンバー全員、仕事を終えてから練習に励みます。皆さん、ぜひ、彼らの熱演をご覧ください。



すべて手作りの舞台上で思いを表現するメンバー